
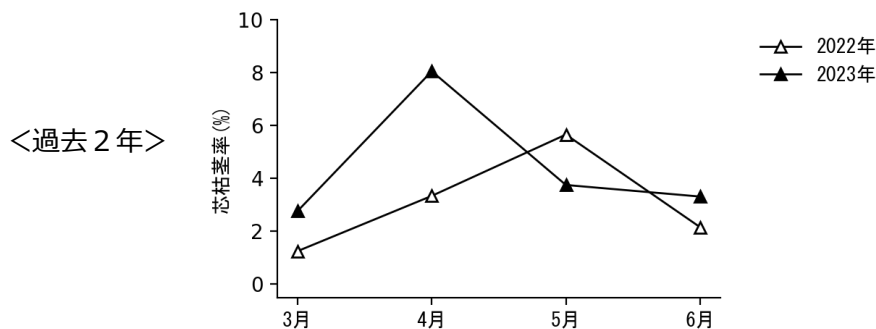
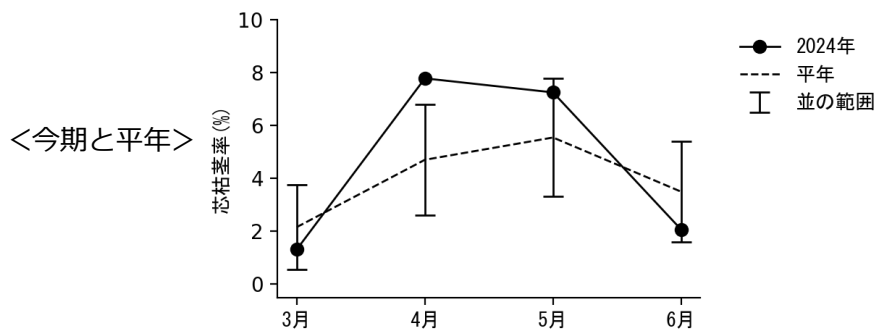


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	—	
	7 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果


芯枯茎率の推移 (株出し)



- ・発生種：カンシャシクイハマキ (57%)、イネヨトウ (43%)
- ・発生ほ場率62.5% (平年：85.9%)、多発生 (久米島)

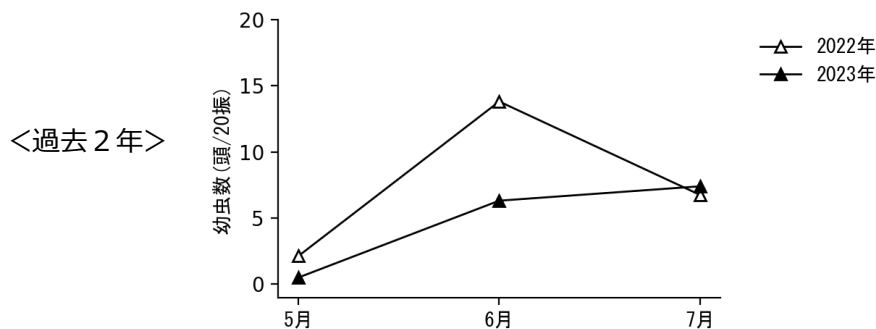
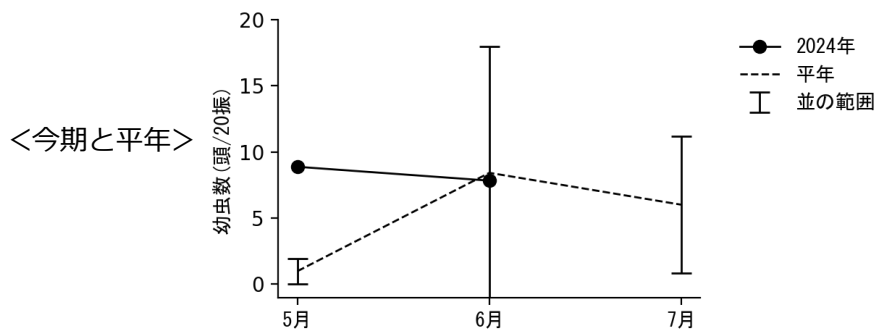
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	① バッタ類			
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報	6 月からの増減傾向	↘		
	7 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果


幼虫数の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 70.9%)、多発生 (伊計島、宮城島、南大東島、久米島)

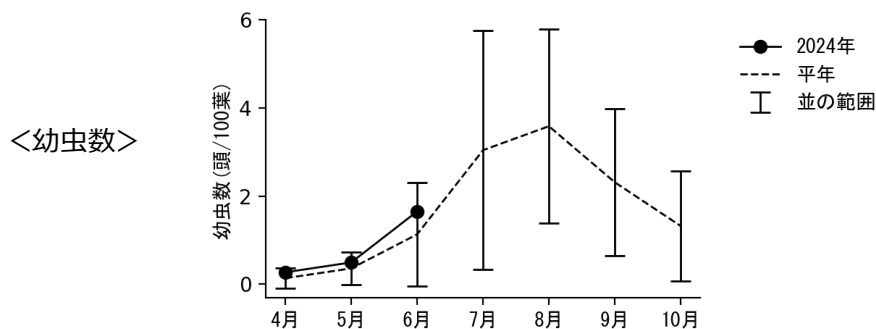
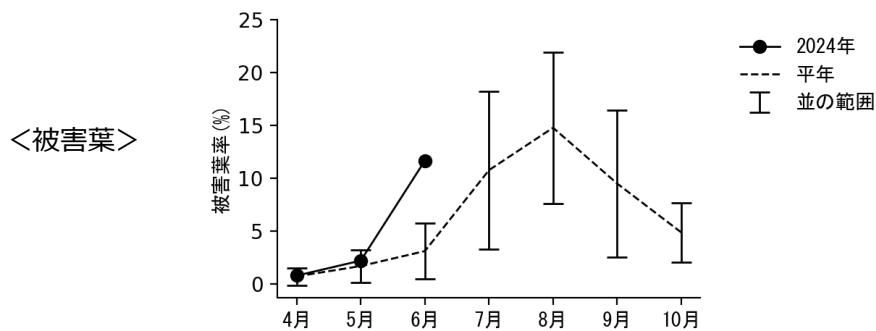
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺のイネ科雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、ほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	① イモキバガ (イモコガ)		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	多	
予 報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の発生推移




・発生ほ場率100% (平年 : 68.6%)

防除のポイント

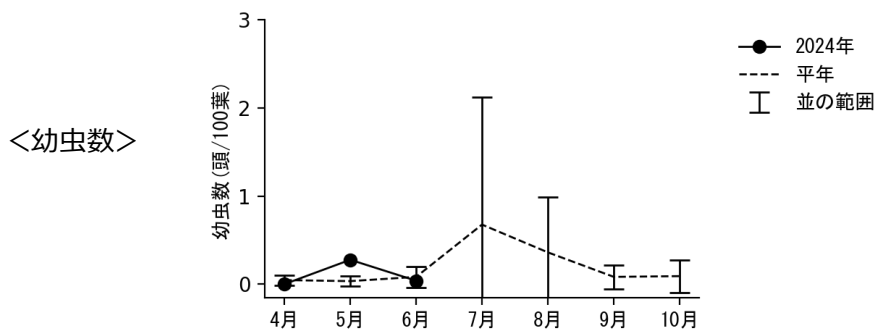
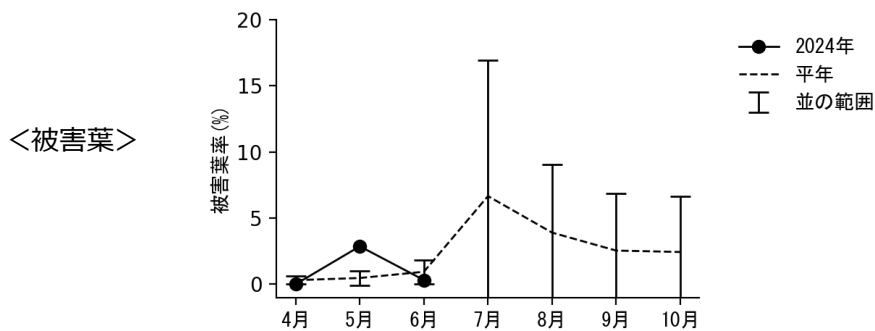
・発生初期の防除が有効であるので、被害葉がみられたら薬剤散布する。



作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	② ナカジロシタバ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


今期と平年の発生推移



・発生ほ場率12.5% (平年 : 37.1%)

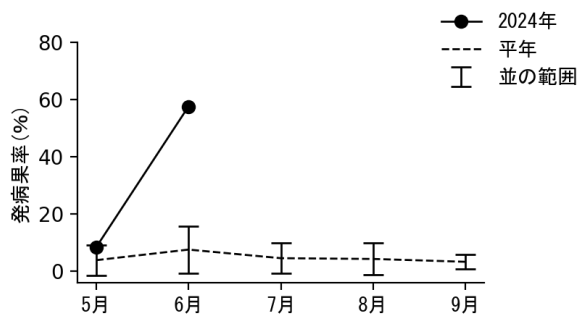
防除のポイント

・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

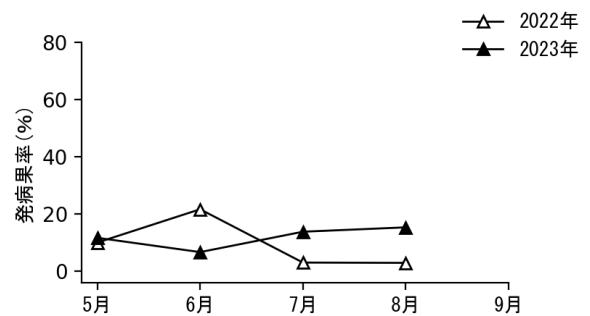
作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	① そうか病			
調査結果	6 月の発生量（平年比）	多		
予 報	6 月からの増減傾向	↓		
		7 月の発生量（平年比）	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）		

調査結果

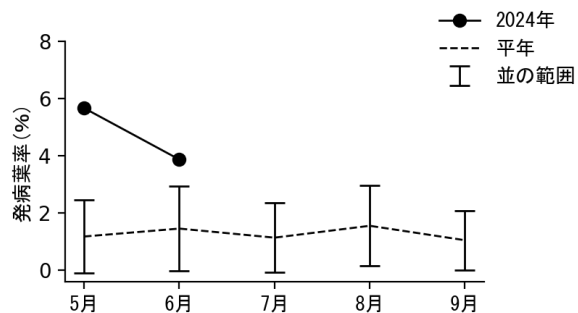
発病果率の推移（今期と平年）



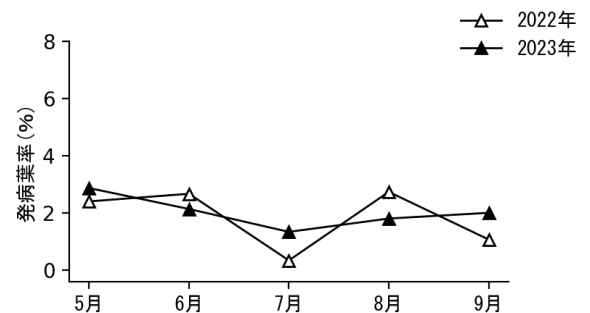
発病果率の推移（過去2年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去2年）




- ・ 果実の発病度12.3（平年3.0）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：67.4%）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

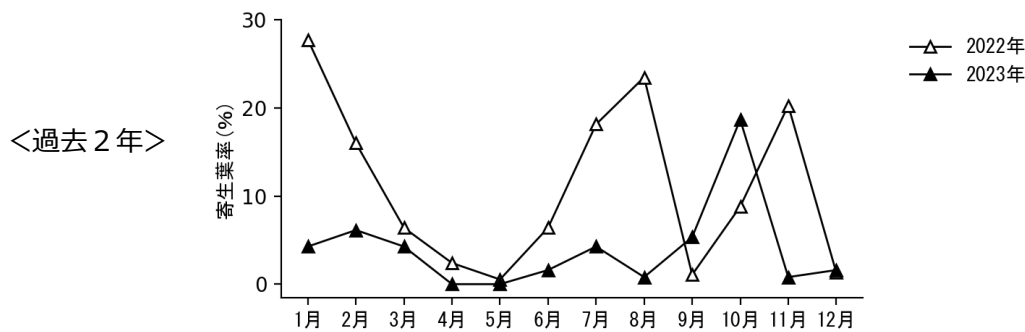
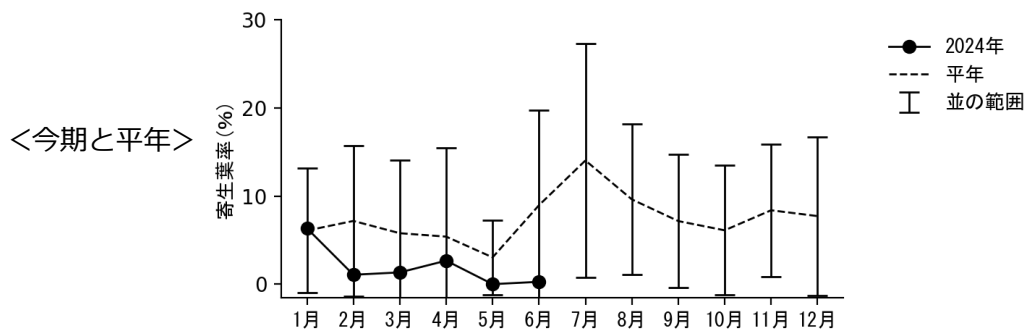
被害果→



作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類		
調査結果	6 月の発生量（平年比）	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

寄生葉率の推移




- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率20.0%（平年：34.8%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

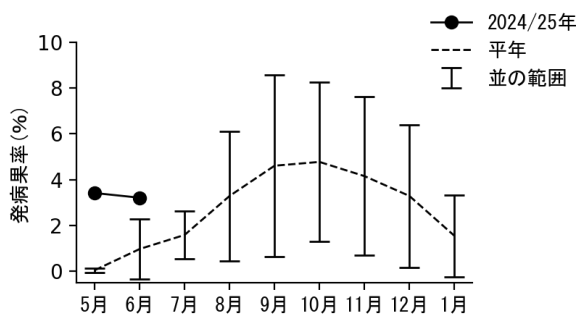


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

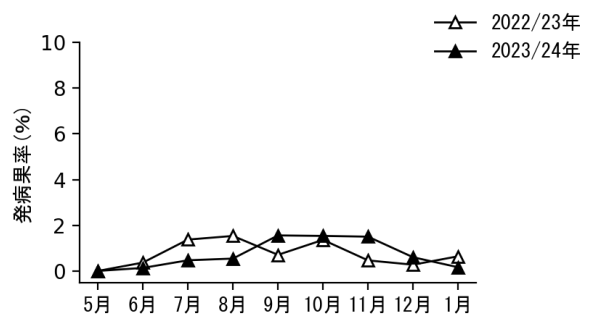
作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	6 月の発生量（平年比）	やや多	
予 報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

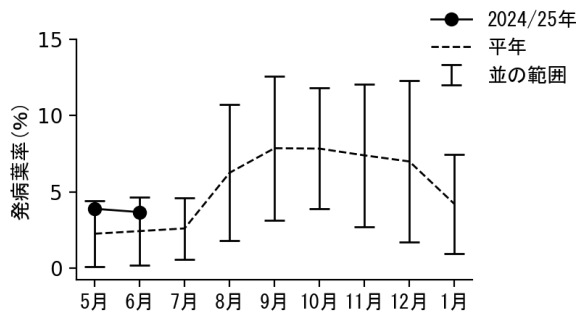
発病果率の推移（今期と平年）



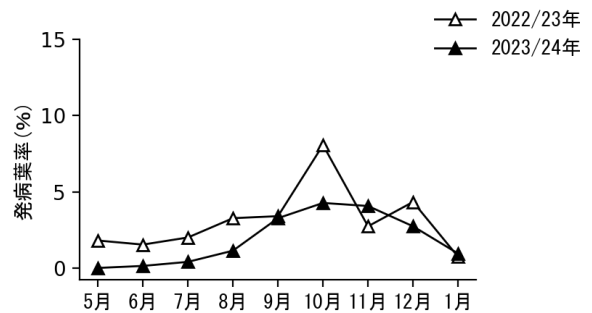
発病果率の推移（過去 2 年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去 2 年）




- ・ 果実の発病度0.6（平年0.2）
- ・ 発生ほ場率80.0%（平年：39.6%）

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努め、被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。
- ・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口（風傷）は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。

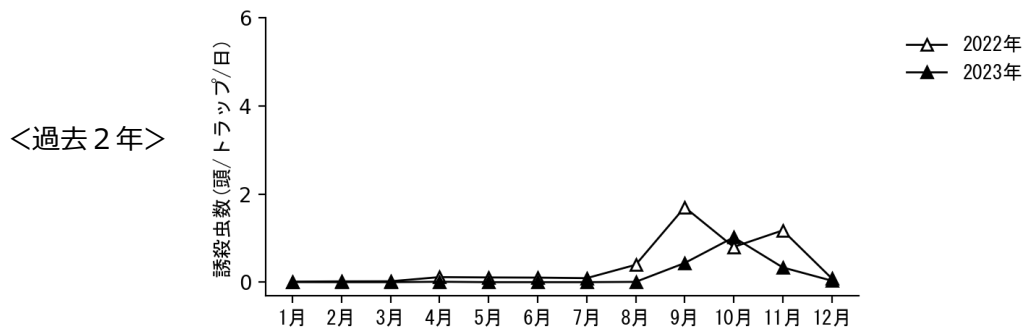
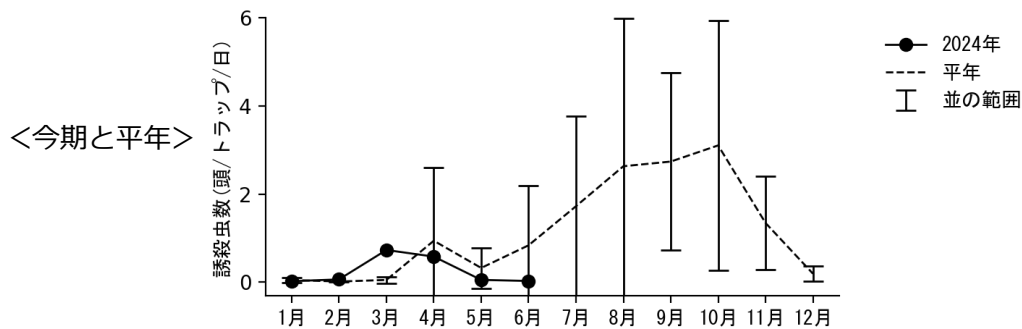
被害葉→



作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率25.0% (平年 : 67.5%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

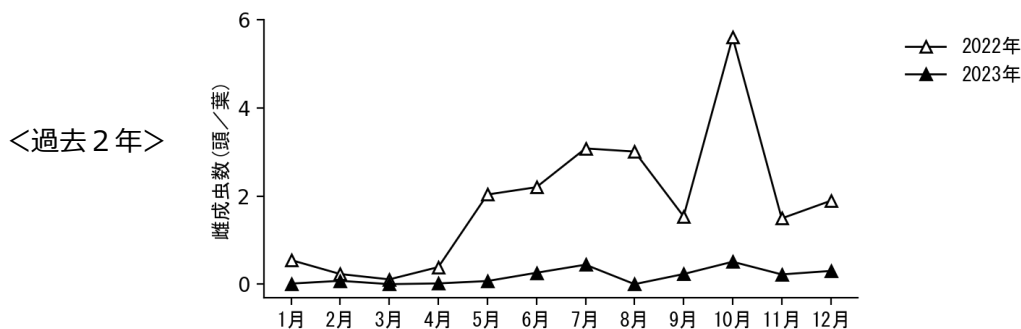
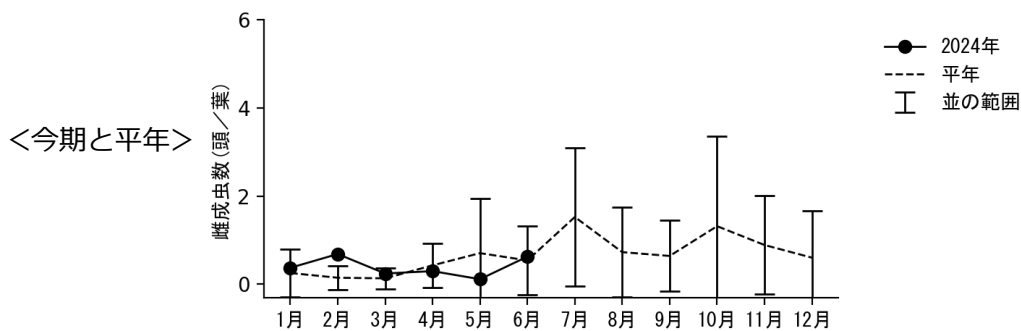


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類			 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報	6 月からの増減傾向	↗		
	7 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率62.5% (平年：41.3%)

防除のポイント


- ・収穫終了後の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

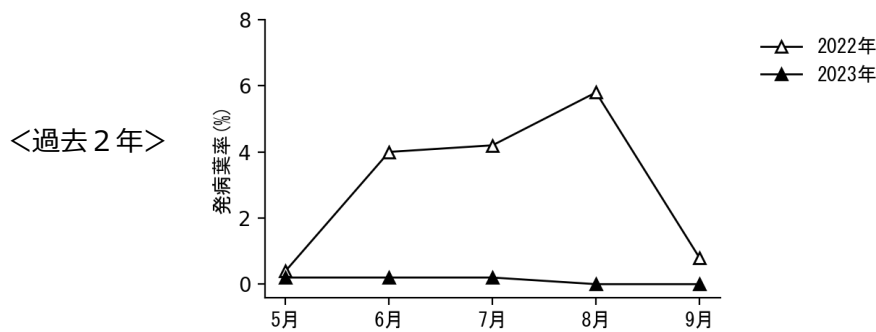
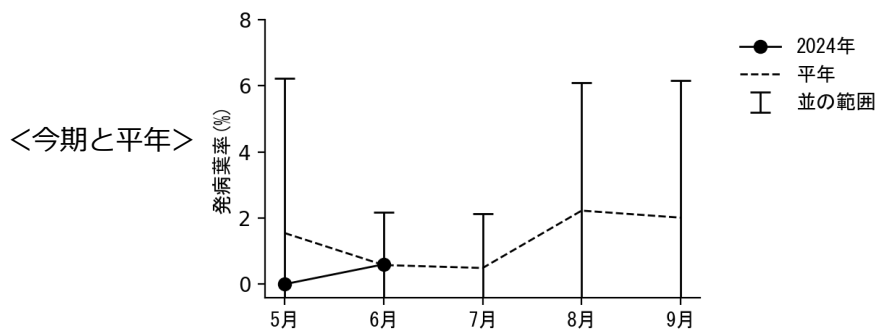


マンゴーツメハダニ

作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	6 月からの増減傾向	→		
	7 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率20.0% (平年 : 6.7%)

防除のポイント

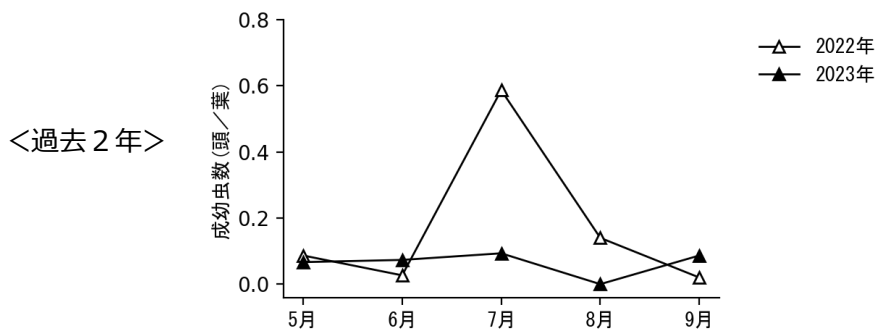
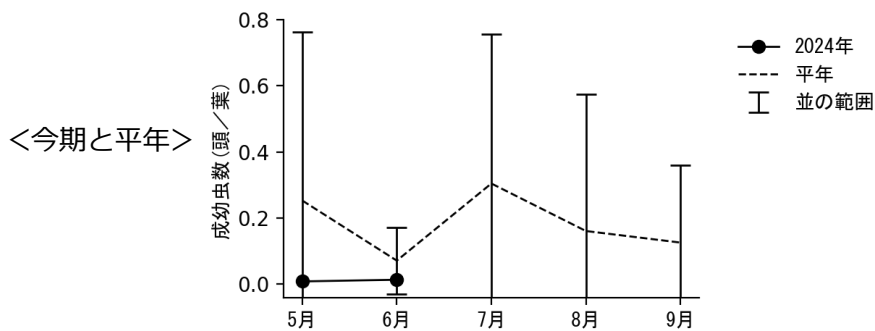
- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。
- ・被害葉を除去し、適宜薬剤散布を行う。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	② アブラムシ類		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↗	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	



調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率20.0% (平年 : 40.0%)

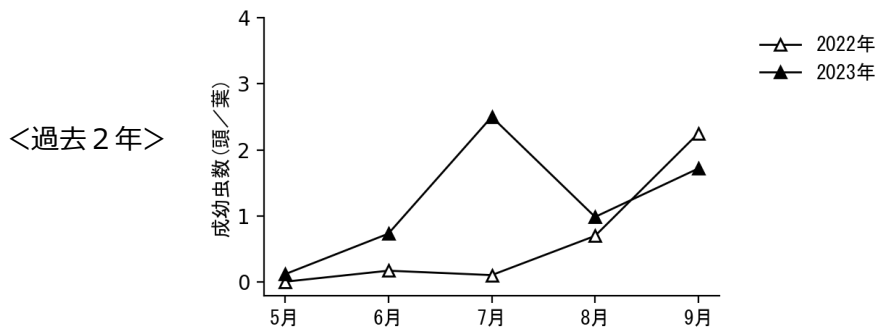
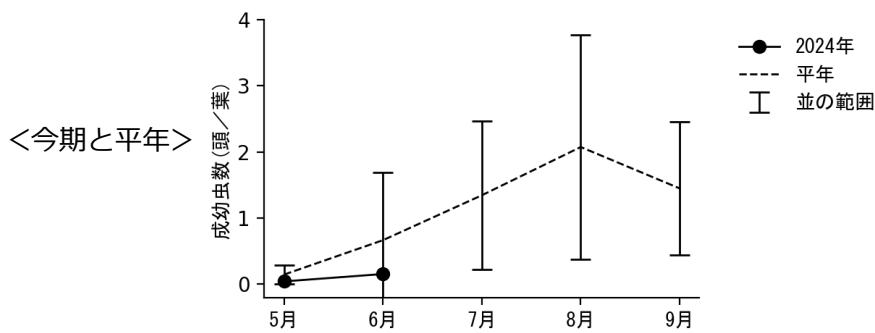
防除のポイント

- ・発生源となるほ場内の雑草を除去する。
- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、茎頂付近や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。

作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	③ フタテンミドリヒメヨコバイ			 成虫
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報	6 月からの増減傾向	↗		
	7 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成幼虫数の推移

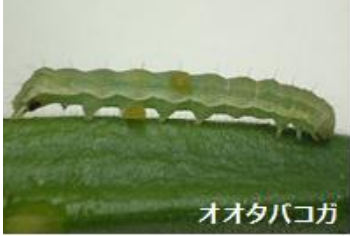


・発生ほ場率60.0% (平年 : 71.1%)

防除のポイント

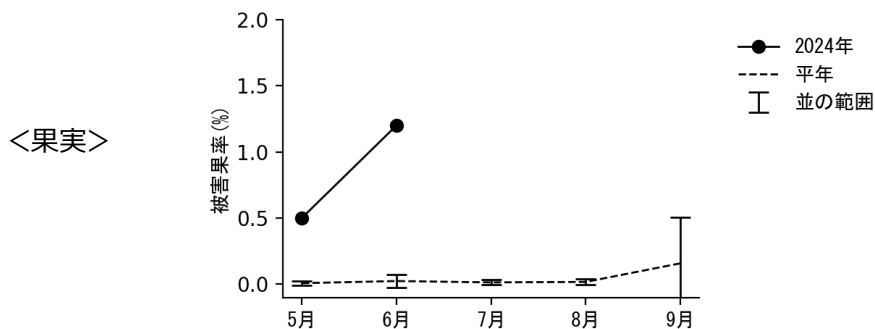
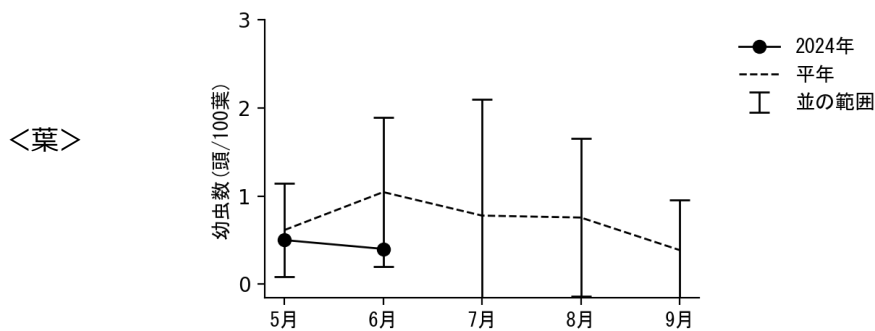
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	チョウ目幼虫		
調査結果	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報	6 月からの増減傾向	↓	
	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

幼虫数の推移 (今期と平年)



・発生ほ場率40.0% (平年 : 37.8%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

